



税・料の滞納の現状と今後の対策は

坂本好教議員

加している。

問 今後、滞納を減らす対策をどう考えているのか。

税務課長 18年度から地方

税収対策福岡県連絡会議も

発足しており、徴収を強化する。また、4月には県庁

に地方税対策本部が設置され、ここで行われる研修に参加するなどして回収に努める。

学校給食の滞納はないのか

問 学校給食費、滞納の状況はどうなっているのか。

学校教育課長 18年度滞納

状況は、小学校で100万3,000円、中学校で1

08万8,000円となっ

ている。17年18年と比較すると若干は減少している。

問 今後の徴収方法は、

学校教育課長 学校では、

校長を始め、教職員が、保護者への催促を行っている。

今後は、教育委員会、学校一諸になって、滞納の解消に努める。

問 職員駐車場の方向性は、

市長公室長 有料化しても台数が半分にはならない。

料金を取れば逆にスペースがある。当面職員の自動車の通動の部分ができるだけ、削減するという方向で、検討していく。



小学校での給食配膳風景

新幹線新駅の市民参加で進める周辺整備は

矢加部茂晴議員

問 平成17年12月定例会での私の一般質問で、市長は、九州新幹線船小屋駅ができた後の周辺整備について、

市民の声を聞く住民参加型の委員会を18年度中に必ずつくり上げたいと答弁された。その後の経過は。

市長 確かにその質問に対し、私の意志を込めて18年度中に必ずつくりたいということとを申し上げた。しかし一方で23年春の駅開業に向けての取組みは佳境に入っている時期だけに、なかなかその先のことについての対応が今遅れていることを大変申し訳なく思っている。

二期目の私の約束であることを踏まえて、この駅をどういうふうに通じる財産として生かしていくかは、もう少し時間をいただいて、ハード・ソフトの両面から体制づくりをお示ししたい。

問 開業後の周辺整備の市費投入はあるのか

問 開業までの整備費用については、市の単費を抑えるべくまちづくり交付金を活用し、市の持ち出しを19億円以下で開業前の準備が進められている。それでは開業後の周辺整備に関して市費の投入はあり得るのか。

市長 筑後市にとって今大きな問題として下水道の整備事業の二期工事をどうし

ていくかという問題も控えており、現時点ではどういうものになるかということでは明言できない。しかし、財政破綻を起こさない財政健全化計画の範囲の中で進めていくという一定の枠ができることは当然のことだろうと考えている。

また、今置かれている財政の実情の中では新幹線駅ができた後に、市税を潤沢に使える状況にないことだけは言えると思っている。



九州新幹線船小屋駅の整備予定地